

わたしとこの町

File12 上開発町



辰口保育園年長児によるダイコンの収穫体験。子どもたちのビックリする顔や笑顔を見るのが好きだと吉川さんは話します。

上開発町で農業を始めて23年になります。メロンやトマト、葉類など約30品目の野菜を作っています。農業を始めるとき、まだ越して間もない私と地主さんを当時の農林課の方がつないでくれました。そのご縁と土地を長く貸していただけていること、応援してください。地域の皆さまがいるからこそ、吉川農園を続けることができます。本当にありがたいです。私が就農を選択した理由の一つ

子どもと野菜との距離を近づけられたらと思います。野菜嫌いの子が少し食べるようになったという声や自分で進んで野菜を洗ってくれたという話を聞くとうれしいです。収穫では自分の

に、働いている姿を自分の子に見せられるということがあります。1年目は自分の子と一緒にイチゴやトマトなどの摘み取りをしていましたが、就農して2年目には、自分の子だけでなく周りの子にも摘み取りをさせてあげられたらと考えようになりました。地元保育園に声を掛け、収穫体験をしてみたいところ、園児はとても喜んでくれました。その姿を見て、これは続けようと思ひ、毎年招待しています。



令和元年から生産を始めた「文字入りメロン」。メッセージや名前などを入れることができ、好評だといひます。

力で頑張つて採ったという達成感を得ることがあります。また、畑に入ること、「土つてこんな感触なんだ」「野菜つてこんな匂いで、こんなふうに見えるんだ」など五感で感じるものがあると思ひます。一回体験すれば記憶の片隅に残るはずなので、何かのきっかけであるとき体験したと思ひ出し、大人になったときに「もつと野菜を食べよう」「自分の子にも野菜を食べさせていこう」となるかもしれません。次世代を担う子どもたちに少しでも野菜の「楽しさ」を伝えていけたらいいと思ひます。



地元園児に野菜の楽しさを伝える

よしかわ かおり
吉川 香里さん

File11 五間堂町



昨年10月に完成した郷土誌「古い資料と聞き書きによる五間堂の歴史と文化」は、本編と資料編の2冊（ともに188ページ）あり、本編は完成後に町内の各家庭に配布され、資料編は希望者に販売しました。

私は五間堂町の歴史や文化を記録した郷土誌を作成するために立ち上がった、五間堂町歴史文化研究会で会長を務めています。研究会には町内の有志を初め市内の有志の方々にも参加していただき、郷土誌の作成に全員が力を合わせて取り組んできました。研究会では、2年間かけて、長年この町に住んでいる方への聞き取り調査や、町に関する資料の研

究などを進めてきました。想定していたよりもページ数が増えたこともあり、完成時期が遅れはしましたが、昨年10月に郷土誌は無事完成しました。今回出来上がった郷土誌は、特に町内の若い人たちに読んでもらいたいと考えています。昭和9年の手取川の大洪水によって、この町には甚大な被害が及びました。その後は住民が一致協力して町を立て直したのですが、今の町内の若い人たちが当時のことを知る人はいません。自分が住んでいる町



歴史文化研究会の様子。平成28年4月から通算で60回以上の会議が開催され、郷土誌の作成に取り組んできました。

がどのようにして今の姿になったのかを郷土誌から学んでいたとき、次世代の人たちに伝えてほしいと思ひています。現在、研究会では、新たに、デジタル紙芝居の作成に取り組んでいます。このデジタル紙芝居では、手取川の大洪水とこの町を発祥とする加賀丸いもの歴史を映像と音声で学ぶことができますので、ぜひ子どもたちに観てもらいたいと思ひています。当研究会に携つてはじめて知ることのできた歴史もありました。この研究会を立ち上げてよかったと感じております。



五間堂町歴史文化研究会 会長

さわだ のぶいち
澤田 信市さん